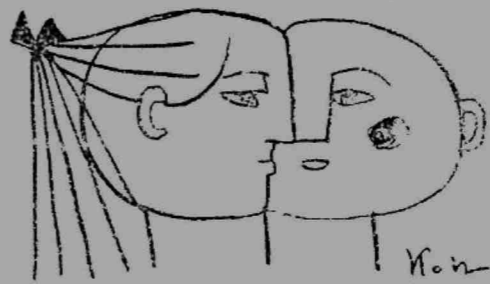


不就学問題に對して

前号への質問にお答え 村井研治

大阪市東萩地区の場合

前月号本誌の西成徳東の中
で村井研治氏担当の「東萩
という土地」の一節につい
て地元小学校から質問が
ありました。



に、その後確實になつた資料により正すべきは正し、さらにすすんでそのことを中心として、より詳しい実態を示して認識を新たにして頂くとうと念願し、ここに本誌の紙数をさいて頂いたわけである。

その箇所というのは「昨年この地域の不就学児童のうち、三十人程が今宮小学校へ集団入学したが、新しい集団に急には適応することができなく、他の生徒や父兄から排斥されて再び脱落していった」というところである。先ず訂正は、三十名とあるのは二十五名である。「排斥された」とあるが、そうでは無い。「くさい」という声は起つたか、そうであるがためにかえつて学校、PTAの暖かい努力

が彼等に注がれた。さらに脱落したのは全部ではなく、僅か三名程であった。資料不確定であった点を謹んで訂正し、以下これに関連して、不就学に対するこの地域の運動、学校、PTAの努力を紹介し、これが今後のこのような問題をともに考えて頂く資料となれば幸いである。職安付近の一角、この地域の性格は既に前号で述べたとおり、正常な社会からズレたものである。そこは、過去において何かにつまずいた人々が、一般社会に適応できずに集つてきた土地である。ここに住民登録をもたない人も多い。彼等の子供は出生届もされていないため、住民登録は勿論、国籍もない。彼等には就学通知はこないの

ある。

ところが、永く放置されてきたこれらの子供たちを救おうとする運動が、やつと三十二年頃からもち上つた。しかし、もとめないこの土地である。不就学児童の数もつかめない。また、これらの児童のほとんどは集団生活を経験していない。中には極端に異常なものもある。彼等のすべてを入学させるには、いろいろな問題があるわけである。調査が行われ、就学可能と認められるものに対して勉強、手続の努力がなされた。さしあたり、その準備金として、その地域の有志から寄付された二万円があてられた。三十三年四月有志によって壮行式が行われ、二十五名の児童が小学校に入学することになったのである。地域の人々の暖かい心は、学校側の熱意とも一致した。年令と学力、他の児童との関係、その他の困難な問題があるにも拘らず、学校は不幸な子供を歓迎し、彼等の教育に極力あたることを全職員で誓った。PTAも彼等に援助の手をさしのべることを

約した。民生局からは特別保護費三万円が出された。このような各方面の努力援助が聞かれたのか、誰からか匿名で二十万円か贈られてきた。学校や関係者の熱意は一層高まった。

一方、人は従来とは全く異なる新しい環境に急に適應するところがむずかしいものである。学校、PTA、地域の人々はできるだけ彼等を適應させようと努めた。夏にはくさいので入室させるという問題が出た。ちょうど学校に風呂はある。しかし学校で彼等だけを、浴させるのは、むしろ差別にとられる恐れありと、風呂室を市民館へ移し、そこで入室させることに手配された。しかし、それが完成するまで待てない。そこで風呂札を發行し、銭湯に行かせたか中には札だけもらって行かないものもある。風呂出席表代りにその札を回収したという。地域

の人の努力も続けられた。彼等の入学について最初から努力を惜しまなかったT氏は、彼等を学校へ送ってしまった後でも、決してそれで事足りりとはしなかつた。毎日子供に十円貯金を

させた。自宅に貯金箱をおき、子供の登校時にそれに十円ずつ入れさせた。出席簿と学用品費の積立をかねてである。貯金に出来ないものには直接家を訪れて説得するというようだった。しかし、このような努力にも拘らず中には脱落するものもあつた。僅か三名ではあつたが、結局新しい環境に適應することかできなかったのであらうか。家庭と学校との環境の著しい相違もあろう、親の無理解も甚だしいであらう、地域に残っている他の不就学児童に惹かれて怠学するということもある。

学校の悩みはここにある。集団入学した二十五名は種々な点より、入学可能と考えられた者のみである。その何倍かがまだ不就学のままで残っているが、彼等は入学者よりも一層多くの問題をもっていると思われる。「不就学児一掃」この言葉こそ言うは易く、行うに余りにも多くの問題を含んでいる。一旦特殊な地域においては、「一旦入学した児童には決して差別扱いはしたくない。全責任をもつて……」という学校の熱意はわ

かるが、一部の特別な児童に多大の犠牲を払うことによつて、一般の大多数の児童に及ぼされる影響も考えられる。まして、これ以上の特別な児童を集団に入学させることは、以上の点からかなり考えさせられる問題であらう。そうかといつて、決して学校も、区役所も不就学児の入学を拒否してはならない。家庭において多少とも教育に関心のある児童なら、学校も喜んで受け入れてくれる。区役所も「相談さえしてくれば、喜んで手続の相談にのる」といっている。事実、それ以後においても個々に就学手続を得て入学した児童がかなりいる。区役所では、一時的な仮入学でなく、できることなら将来のために、親の本籍地や子の出生地と連絡をとつて児童の籍まで作ることに努めている。

複雑な社会である。そしてそれぞれ領域でも、またはそこで事に携わる人にも、行動や能力の限界はある。何人いるともわからない不就学児童、それも無籍のものを残らず集めること自体が容易なことでないが、さ

らにそれを一括して学校に入学させてみても、彼等の集団への適應、他への影響その他いろいろの問題が残る。特別施設という方法も考えられる。しかしそれには何といつても経費である。現状のままでも、彼等に要する費用は大きい。匿名による寄付金も何時までも続く筈はない。区や市もPTAも努力はしている。しかし「不幸な子供に もっと大きいところから多くの出費を」というのが関係者の声であらう。

しかし、限られた費用の中でも周囲の人々の暖かい心によつて、集団入学児二十五名中既に十一名が卒業している。「ここまで漕ぎつけたのもみなさんの援助があったからです。殊に匿名の寄付者にはいくら感謝してもし切れません。是非この結果を知らせたいものです。しかしこのようなことは地味にやるべきこと、ハデにやることはかえつてマイナスの面が多いから」と語るのが校長である。

(奈良女子大学講師)

「ごいませんか。昨年は色々御世話様になりました。あの当時をふり返ってみると、今でもゾツとしますが、本当にあの頃は現在自分があるとも思っています。こうして暮せに生活出来るのも、曾我先生の持ってきて下さった一冊の「少年輔導」のお蔭で、私も方向転換できました。いまは働く青少年の会に入っていて、たのしく、明るく暮しています。こうして生きる望みを与えて下さったのも輔導協会があったからと感謝しています。」

私は去る六月には大阪婦人少年室主催の協働員近畿地区代表と青少年の懇談会にも出席させて頂いた頂きました。多くの大人が、青少年のためにこんなにも努力されていることを知り非常にうれしく思いました。私が非行に陥る一歩手前まで行った経験があるだけに、その恐ろしさは身にしみえます。あぶない境にある方達に伝えてやりたい気持ちでいっぱいです。

に、心から愛の手をのべて導いて下さる先生方のやさしい瞳のあつたことを覚えてやりたく思っています。(豊中市、福島克子 十六才)

お前がうれしく拝見いたしました。もうお元気に暮らして下さい。

十月号をみて

今度の十月号、まことに立派な特集で、感激しています。一流の雑誌でも到達でき得ない企画、さすがにと、ただ感服申しあげました。西成というスラムを、子どもという場から分析し、研究したものは、今までになかったものでした。秋涼の候、ますます御元気に御清助のほどを。(尾崎市武庫之荘四ノ六三、八野井実)

いつも熱心に御覧いただきまして有り難うございます。十月号の西成特集も各方面からいろいろ御好評をいただきました。当方の編集上の努力にもなりました。

お知らせ

西成のスラム特集をした先月号(十月号)は、各方面に大きな反響と絶賛を賜わり、府下は

「論全国各地より多数の御注文を頂き編集部一同は感激しております。」

現在でも各方面から多数の御注文が引きも切らない状況ですが、実は同号は発行後間もなく売り切れました。

編集後記

増刷をせよという声も相当御座いますが、頭初そのような反響を予期していなかったたので、同号の組版は既に崩してしまつたような実状で、再版は致しかねますのでその点何卒御諒解下さるよう御願ひ申し上げます。

今月号は外国事情の欧米特集として考へてみたものです。大阪市大の福村教授が、少年に一回聞かれるというワシントン・ボワイートハウス会議、四年目に行われるキリスの社会事業会議の二つに出席され、世界の社会福祉事業の進展と委員の点について詳細に視察見学されたことをはじめとして、コロンビア大学で一年間の研究をされた京都家裁調査官山口道氏、世界ガールスカウト大会に参加した山本君代氏、世界各国の青少年問題を研究してこられた西田誠行氏等の協力をいただきまして出来上りました。

少年福祉にたづさわる構成の問題、活動状況、非行支援、対策のちち方等、現代日本の青少年問題の前進と解決のために貴重な資料で、読者の皆様の御期待に答えるものと自信しております。

本誌は青少年問題の理解と対策のために、今後ますます拡充してゆきたいと存じますので、読者諸氏も御座りなく、その御意見をお寄せ下さい。

禁無断転載

少年輔導十一月号(第五卷 第二号)

(定価六〇円)

昭和三十五年十月二十五日印刷
昭和三十五年十一月一日発行

発行所 社団法人 大阪少年輔導協会
大阪市天王寺区六万休町換地ブロック
四〇ノ一三 (稚寺町電停前)

電話(77)四一〇番
振替口座大阪二五八三四

編集人 有馬朝子
発行人 宮田秀太郎
印刷所 東洋紙業株式会社